

感染症についてのお知らせ



墨田区保健所 保健予防課 感染症係 区役所 3階
電話 03-5608-6191(直通) FAX 03-5608-6507

平成31年
3月号

東京都内の感染症流行情報

インフルエンザは注意報レベル以下となっています。
伝染性紅斑は一部に報告数の高い地域があります。

感染症のお知らせ

レジオネラ肺炎について

<レジオネラ肺炎とは>

レジオネラ症とは、レジオネラ属菌による感染症です。流行は季節によらず、中高年に多く発生しています。

<原因菌と主な感染経路>

レジオネラ属菌は50種類以上の菌種があり、自然界の土壌や淡水（川や湖）に広く生息しています。レジオネラ属菌が人工的な水循環設備（循環式浴槽、冷却塔、給湯設備、加湿器など）の中に侵入・繁殖し、それらの施設から発生するレジオネラ属菌を含む細かな水滴（エアゾル）を吸い込むことで感染します。

人から人に直接感染することはありません。

<潜伏期間と症状>

レジオネラ肺炎の潜伏期間は2～10日です。全身倦怠感、頭痛、筋肉痛などの症状から始まり、咳やたん、高熱、胸痛が出現します。腹痛や下痢等の消化器症状や傾眠や四肢の振せんといった中枢神経症状が見られるのも特徴的です。適切な抗菌剤治療がなされないと致死率が60～70%と高くなります。

乳幼児や高齢者、病気にかかっている方など抵抗力の弱い方は発病のリスクが高くなります。

<予防対策のポイント>

24時間風呂など循環式浴槽を使用する際は、取扱説明書の指示通りに管理し、お風呂のお湯を適宜交換し、浴槽の清掃など清潔を保ちましょう。加湿器のタンクはこまめに清掃し、使用する際は水の継ぎ足しをせず、新しい水を使い、使用後はタンク内の水を抜いて乾かしましょう。

麻疹に注意しましょう

日本の麻疹（はしか）は排除状態であると2015年3月WHO（西太平洋地域事務局）により認定されましたが、最近国内において麻疹患者の報告が相次いでいます。国内での集団感染事例も報告されています。東京都内でも患者の報告があり、感染の広がりについて今後十分な注意が必要です。

<麻疹とは>

麻疹ウイルスの感染によっておこる感染症です。

「空気感染」が主たる感染経路ですが、ほかに患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛沫感染」、およびウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。周りに感染させる期間は発疹が出現する4日前から発疹出現後5日ぐらいです。

<症状>

典型的には10～12日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱および風邪症状が2～4日続き、その後39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。主な症状は発熱、発疹の他、咳、鼻水、目の充血です。肺炎、脳炎といった重い合併症を発症することもあります。合併症がなければ主な症状は7～10日で回復します。

<予防>

麻疹の感染力が極めて強く、空気感染で、マスクや手洗いだけでは十分に予防できません。有効な予防法はワクチン接種をして免疫をあらかじめ獲得しておくことです。

<子どものMR（麻疹風疹混合）の定期予防接種について>

定期予防接種として、麻疹・風疹混合ワクチン（MRワクチン）があります。標準的な接種期間は以下のとおりです。効果を持続させるためには2回の接種が大切です。

- ・ 1期：1歳以上2歳未満
- ・ 2期：5歳から7歳未満で小学校就学前1年間

<子どものMR（麻疹風疹混合）の任意予防接種を公費負担しています>

墨田区では、MR（麻疹風疹混合）の定期接種期間中に受けることができなかった方で、MR 期末接種の方（2歳以上、年少年中クラスの方）およびMR 期末接種もしくは、MRの予防接種が1回以下の方（小学1年生～高校3年生）を対象に、接種費用の助成を行っています。麻疹・風疹の両方を罹患した方は除きます。

- ・ 申込方法 接種を希望する人は接種前に電話で下記にお申込みください。

申込み後、医療機関にお持ちいただく予防接種予診票を郵送します。

【問い合わせ・申込み先】墨田区保健所予防課感染症係（区役所3階）03-5608-6191

このお知らせは、東京都感染症情報センター（<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>）の情報及び東京都健康安全研究センターが集計を行った「東京都感染症発生動向調査週報」（<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/epidinfo/>）を基に作成しています。